



新しく配備された消防ポンプ自動車



機器の取扱い方法を聞く団員

伯耆町消防団第1分団に新しい消防ポンプ自動車が増え、3月7日に引き渡し式が開かれました。

これは、これまで第1分団が使用していた消防ポンプ自動車が老朽化したため、町が電源立地地域対策交付金により新たに購入したものです。

式では、森安町長から木村浩団長へ目録が手渡され、さらに木村団長から福吉朗第1分団長へ引き渡されました。式の後、団員はさっそく車両に乗り込み、操作方法の指導を受け、放水テストを行いました。

福吉分団長は、「消防車の機能を早く習得し、地域防災に尽力したい」と決意を新たにしていました。

防災活動に大活躍

新しい消防ポンプ自動車配備



放水の合図を送る機関員達



中継用ホースを運ぶ団員

伯耆町内での火災を想定した非常呼集訓練が3月2日、久古を演習地として開催されました。

久古公民館から出火した炎が周囲に延焼し、7つの分団の連携により消火に当たる要領で行われました。

午前7時のサイレンと防災行政無線により参集した77名の消防団員たちは、決められたそれぞれの役割分担を的確にこなし、スムーズに消火活動を行いました。

迅速な消火活動を目指して

非常呼集訓練

まちのわだい



「島人ぬ宝」を熱唱する溝口小金田校長先生



森と泉の里合唱団の皆さん

町内の音楽グループが日頃の練習の成果を発表する第9回伯耆町民音楽祭が3月2日、鬼の館で開催されました。

今回は前回より1団体増えて15団体が出演し、和太鼓、合唱、ダンス、大正琴、ダンス、バンドと色々なジャンルから全38曲を演奏しました。国籍や年齢、男女を問わず、小さな子どもから高齢者まで多くの方の参加があり、最後までそれぞれの特色ある演奏に耳を傾け、大きな拍手を送っていました。

また、休憩時間には、有志による演奏や伯耆みらいによるパンやコーヒー、かりんとうなどの販売があり、新たな発見や交流を生み出すきっかけとなる楽しい一日となりました。

音楽で会場がひとつに

第9回伯耆町民音楽祭



日本海新聞ふるさと大賞の受賞者たち



父原自治会と児童養護施設との交流

父原自治会と岸本中学校2年生の稲垣大智さんが、日本海新聞ふるさと大賞2013を受賞し、表彰式が3月11日、伯耆町役場で開かれました。

この賞は、日本海新聞ふるさと創り事業団が、スポーツ振興と地域発展に寄与した個人、団体を表彰するものです。

父原自治会は、20年以上にわたり米子市内の児童養護施設の子どもたちと定期的な交流を進めています。また、住民が総出で交流に参加することによる、集落活性化の取り組みが評価され、地域貢献賞を受賞。稲垣さんは、平成25年度中国中学校総体男子平泳ぎ200mと100mでの優勝や、全国中学校総体男子200m平泳ぎで2位などの成績を収めたとして、スポーツ功労賞を受賞しました。

今後の活躍にさらなる期待

日本海新聞ふるさと大賞